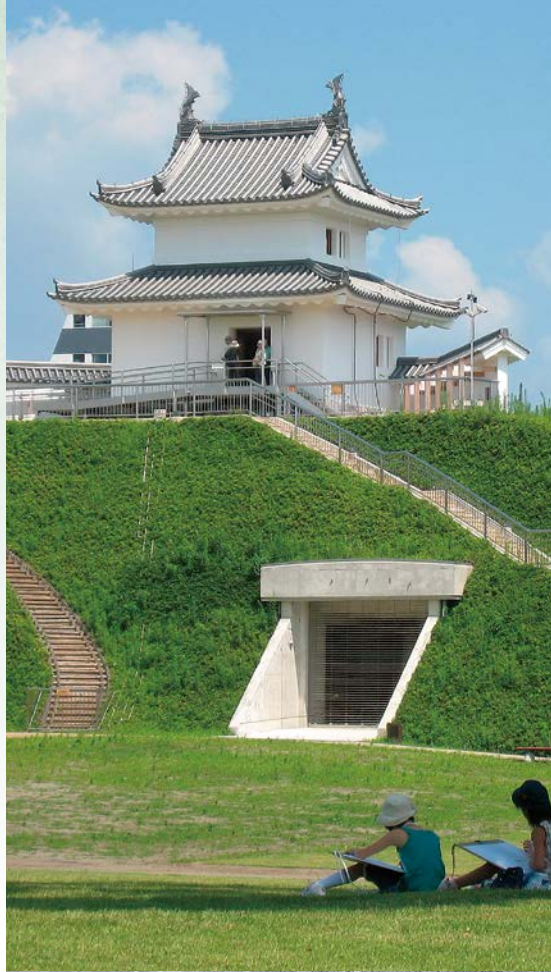




宇 都 宮 城



1 宇都宮城の築城^{ちくじょう}

宇都宮城の築城については、^{ふじわらのひでさと}藤原秀郷築城説、^{そうえん}藤原宗円築城説がありますが、その時期の遺構は今のところ確認されていません。これまでの発掘調査では、平安時代末から鎌倉時代初頭の堀が確認され、3代^{ともつな}朝綱（1122-1204年）のころのものと考えられます。朝綱は^{ごしらかわじょうこう}後白河上皇を警護する「北面の武士」を務め、^{みなもとのよりとも}源頼朝から宇都宮明神検校※を認められた人物です。

※検校…神職の最高位の立場



宇都宮朝綱肖像画
『下野国誌』より

コラム

二荒山神社と宇都宮の古い地名

二荒山神社は、古い歴史資料や江戸時代の絵図面に「宇都宮^{だいまょうじん}大明神」などと記されています。平安時代のはじめには下野国の中心的な神社として認められていたようです。

むかし、宇都宮の中心部は河原や沼・池が多い湿地帯で、^{いけのべのこう}池辺郷と呼ばれていました。中でも宇都宮大明神のすぐ南には大きな池があり、ここから^{しんきょう}神鏡が発見されたので「鏡が池」と呼ぶようになったと伝えられています。その西に残る^{いけがみちよう}「池上町」という地名はその名残だと考えられます。

2 鎌倉幕府の重責を担った宇都宮氏

鎌倉時代に、宇都宮氏は幕府の有力な御家人となりました。特に6代^{やす}泰綱、7代^{かげつな}景綱、8代^{さだつな}貞綱は幕府の要職である^{ひょうじょうしゅう}評定衆や^{ひきつけしゅう}引付衆を務めました。特に貞綱は、1281（弘安4）年の元軍の襲来を迎え撃つために、その軍を統率する大將軍として九州筑前に出陣しました。

また、宇都宮氏は和歌に精通し、特に5代^{よりつな}頼綱（^{れんしゅうほうし}蓮生法師）は、^{さだいえ}藤原定家と交流を持ち、後の時代に成立する「百人一首」のきっかけをつくった人物です。

宇都宮氏は、二荒山神社の宗教的権威と領地の支配を通じて勢力を拡大し、^{しもつけ ひたち}下野から常陸にかけての領地のほか、伊予（愛媛県）・豊前（大分県）の守護領や莊園をもっていました。分家が増え管理する寺社も多くなったため、1283（弘安6）年、景綱はこれらの領地を治めるために70か条からなる「弘安式条」を制定しました。これは、中世における武家法の草分けとされるものです。

コラム 百人一首と宇都宮

頼綱は、政治から身を引くと出家して蓮生と名のり、京都に住むようになります。そこで歌人として有名な藤原定家と親しくなり、蓮生の娘と定家の息子が結婚して両家は親せきとなりました。当時、神社・仏閣や自宅のふすまに和歌を書いた色紙を貼ることがはやっていましたが、蓮生は和歌の選定を定家に依頼します。このときまとめられたものが元になって、現在の小倉百人一首ができたといわれています。

3 戦乱の中を生き抜く宇都宮氏

南北朝時代から戦国時代にかけて、国内は戦の絶えない時代がつづきます。内陸にある宇都宮は、四方を敵に囲まれ、多難な時期を過ごすこととなります。

9代公綱は、『太平記』の楠木正成との戦いがえがかれている中で、「坂東一の弓矢取り」と評され、全国的に名が知られました。また、10代氏綱は、足利尊氏を助け、上野国（群馬県）・越後国（新潟県）の守護になっています。

戦国時代になると、宇都宮氏は、武田勝頼や小田原の北条氏ら周囲の大勢力と戦ってよくこれを防ぎました。平地にあった宇都宮城は、改修により幾重にも堀と土塁で囲まれた堅固なつくりになっていきました。また、市内には40を超える城や館が築かれていました。典型的な山城である「多気城」はその代表で、北条氏の進攻に対し、22代国綱が拠点とした城です。



宇都宮公綱画像
『下野国誌』より

4 全国統一と宇都宮城

豊臣秀吉は、小田原の北条氏を滅ぼして全国統一を果たしますが、その後宇都宮城に約10日間滞在し、関東・東北の大名配置を決めています。これを「宇都宮仕置」といいます。源頼義や源頼朝が東北地方を平定するにあたり宇都宮をおとずれたことになって、この地を仕置の場として選んだのではないかともいわれています。徳川家康や伊達政宗をはじめ、東国の戦国大名が宇都宮城を訪れ、秀吉のさばきを受けました。

このころの宇都宮城主であった国綱は、小田原攻めの功績を認められ、秀吉から一門格を表す羽柴の姓を送られ、また、朝鮮出兵にも兵を率いて参戦しています。しかし、1597（慶長2）年、秀吉によってとつぜん領地が没収され、国綱は追放されてしまいます。このとき、一人の家来もつき従うことを許されなかったため、東勝寺など宇都宮氏ゆかりの寺院の住職がお供をしたと伝えられています。これらの寺院は急速に荒れはて、廃寺になったと伝えられています。国綱追放の理由には、後継者問題をめぐるもめごととか、検地の結果をごまかしたためだとかさまざまな説がありますが、結局は古い勢力を取りはらい豊臣家の家臣を配置して支配を固めようという秀吉のねらいがあったと考えられます。

国綱改易後、城代として宇都宮城をあずかったのは浅野長政です。長政は豊臣政権を支えた五奉行のうちの一人で、宇都宮がいかに重要視されたかがわかります。翌年の1598（慶長3）年には、会津の蒲生秀行が正式な宇都宮城主となります。

秀吉の死後の1600（慶長5）年、天下分け目の戦いといわれる関ヶ原の戦いがおこりました。その直前、徳川家康は小山に、後に二代将軍となる秀忠は宇都宮城にいました。



コラム 廃寺となった東勝寺

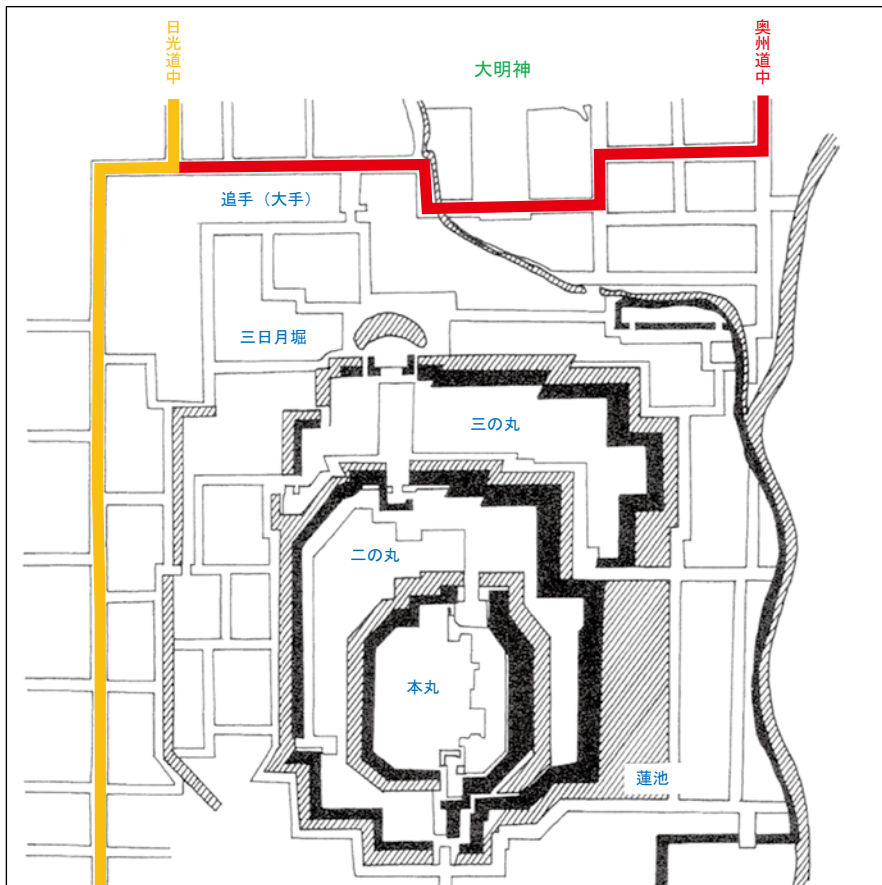
東勝寺は宇都宮景綱が創建し、その後、貞綱が父の菩提のために荒尾崎（二荒山神社の南）に移しました。境内は広大な寺領をほこっていましたが、宇都宮国綱の改易とともに廃寺となりました。現在、清巖寺にある鉄塔婆（国重要文化財）や宝蔵寺にあるおよりの鐘（市指定）は、廃寺となった東勝寺から移されたものです。

5 近世城郭に生まれ変わった宇都宮城

江戸時代になると、宇都宮城の城主は、代々譜代大名が務めます。1601（慶長6）年、家康の孫にあたる奥平家昌が10万石で宇都宮城主に取り立てられます。家昌の時代には、5と10の日には大膳市が開かれるなど、商業振興に力が注がれました。

1616（元和2）年、家康が亡くなり日光山に家康廟が建設されることになりました。その奉行となったのが、後に宇都宮城主となる本多正純です。翌年、家康廟がほぼ完成すると、2代将軍秀忠が初めての日光社参を行うため宇都宮城に宿泊しています。宇都宮城とその城主の地位の重要性を示す出来事です。

家昌が亡くなると、その子の忠昌が城主になりますが、12歳という若さであったため1619（元和5）年に古河へ移り、本多正純が15万5千石で城主となりました。正純は、奥州道中の付けかえと日光道中の整備、宇都宮城の大改築、二荒山の丘陵の切り通しと城下町の整備などを行いました。



本多正純頃の城下を表わしたと思われる絵図を参考とした略図

1622(元和8)年, 2代将軍秀忠が日光社参のために江戸を出発します。秀忠は、往復とも宇都宮城に宿泊する予定でしたが、帰り道、急に予定を変えて宇都宮城を避け、江戸に帰ってしまいました。その後、正純が幕府の命令で山形城の受取りに出向いた留守中、突然宇都宮城を取り上げられてしまいます。はっきりした理由はわかりませんが、家康死後の幕府内における権力争いに巻き込まれたのではないかと考えられています。このことが後に、有名な伝説「宇都宮^{つりてんじょう}釣天井」を生むこととなります。釣天井伝説は、「宇都宮城主本多正純が、日光社参の帰り道に宇都宮城に宿泊する予定であった3代将軍^{いえみつ}家光を、からくり^{じか}仕掛けの天井をつくって暗殺しようと企てた」という物語です。



1 江戸時代初め、3代将軍の徳川家光公が日光東照宮でお参りをする事になり、その帰り道、宇都宮城に一泊することになりました。

このことを知った宇都宮城主の本多正純は、家光公をからくり仕掛けの釣天井をつくって暗殺しようとくわだてました。



2 さっそく大工が集められ、ひそかにその工事にとりかかりました。大工たちは工事が終わるまでお城の外に出ることを禁止されてしまいました。

この中に与五郎という若者がいました。与五郎は、名主の植木藤右衛門の娘、お稲と恋仲でした。

釣天井ができあがると、工事の秘密が外にもれることを防ぐために、大工たちは全員殺されてしまいました。



3 ある夜、お稲の枕もとに与五郎の亡霊があらわれ、殺されてしまったいきさつを告げ姿を消しました。お稲は悲しさのあまり、与五郎から聞かされたことを手紙に書き残して、恋しい人のあとを追って死んでしまいました。



4 この手紙を父の藤右衛門が発見し、お稲の手紙と釣天井の絵図面を持って、日光から江戸へ帰る将軍の行列にうったえました。

そのため、家光公は宇都宮城には泊まらず江戸に帰り、危うく命拾いました。暗殺計画は失敗に終わり、本多正純は捕えられ、幕府の裁きを受けることになりました。

(このお話は、正純が突然宇都宮城を取り上げられたことを基に、のちにつくられた伝説です。)

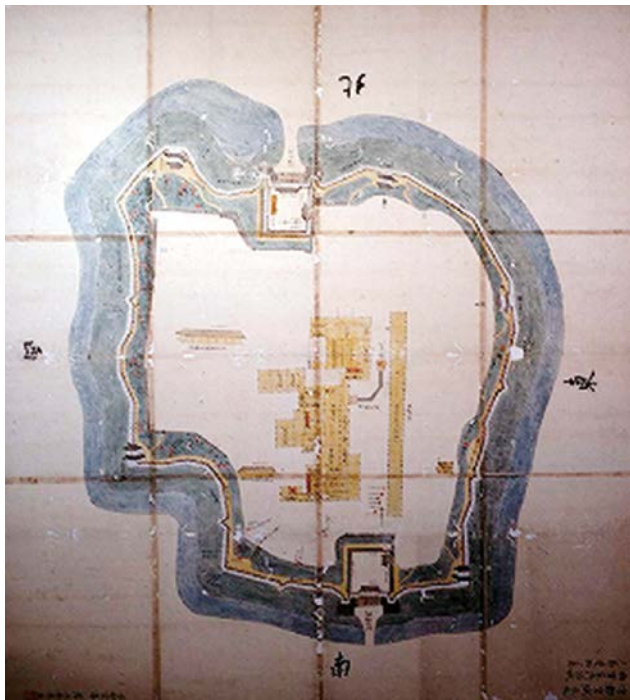
6 日光社参^{しやさん}と宇都宮城

日光社参とは、将軍が自ら日光山の東照宮^{さんけい}を参詣することです。東照宮は初代将軍の家康を神として祀った徳川幕府の聖地です。

宇都宮城はこの日光社参における将軍の宿城としての役割をもっていました。宇都宮城が全国のほかの城と大きく違うところです。このほか、岩槻城^{いわつき}・古河城^{こが}が宿城とされており、宇都宮城に代わって壬生城を用いることもありました。

日光社参は10万人を超える規模の大行列をとこなうもので、将軍と幕府の威信をかけた一大イベントです。しかしかかる費用は莫大なもので、かつ社参は家康の命日である4月17日の東照宮大祭に合わせて行われたため、農繁期に人馬を動員する負担も相当のものでした。

宇都宮城内には、将軍の日光社参の際に限って使用された御成御殿^{おなりごてん}が設けられました。御殿ははじめ本丸内に独立して設けられていましたが、吉宗^{よしむね}の社参からは二の丸の城主御殿の一部を増改築して将軍の宿泊にあてられました。本丸の御成御殿は、吉宗の社参までは現存していたようですが、社参終了後に取り壊されたと考えられています。



◆宇都宮城本丸将軍家御泊城ノ節ノ建物ノ図

将軍の日光社参で使用された本丸御殿の図面は、現存するものは少なく、貴重な資料である。この図は吉宗のころの宇都宮城本丸の様子を描いたと考えられており、本丸の土塁の高さから土塀の銃丸^{とべいじゆうがん}の数まで、精密^{せいみつ}に記されている点が特徴である。

昭和60年3月20日 市指定

7 宇都宮城の構造

宇都宮城は別名かめがおかじょう亀ヶ丘城とも呼ばれていました。城の東側を田川が南流し、城は段丘上に立地していました。

この城は、本丸を中心に、二の丸、三の丸と城の外郭で構成されています。18世紀以降の絵図には、本丸に五つのやぐら櫓と南北2つの門が描かれています。この本丸部分に将軍が日光社参の際に宿泊する御殿が建てられました。

二の丸は、本丸を囲むように造られ、城主の居所である御殿が建てられていました。

その北側には三の丸、西側に西館曲輪、南側に南館曲輪が配され、さらにその外側を堀と土塁により防御していました。さらにその外郭の北側部分におおて大手門が位置し、奥州道中に面していました。

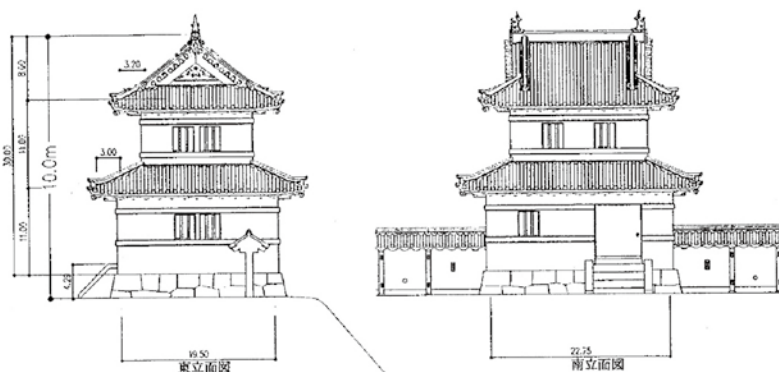
また、三の丸虎口の太鼓門の外側には、三日月堀が掘られ、北側からの攻撃を強く意識した造りであることがわかります。



宇都宮御城内外絵図（部分）

コラム 復元された櫓

現在の宇都宮城址公園内にはせいめいだい清明台と富士見櫓の2つの櫓が復元されています。絵図を参考に17世紀中ごろを想定して復元されたもので、二階建てで瓦葺の建物です。このほかに、本丸土塁上には「辰巳櫓（巽櫓）」「東櫓」「北櫓」がありました。



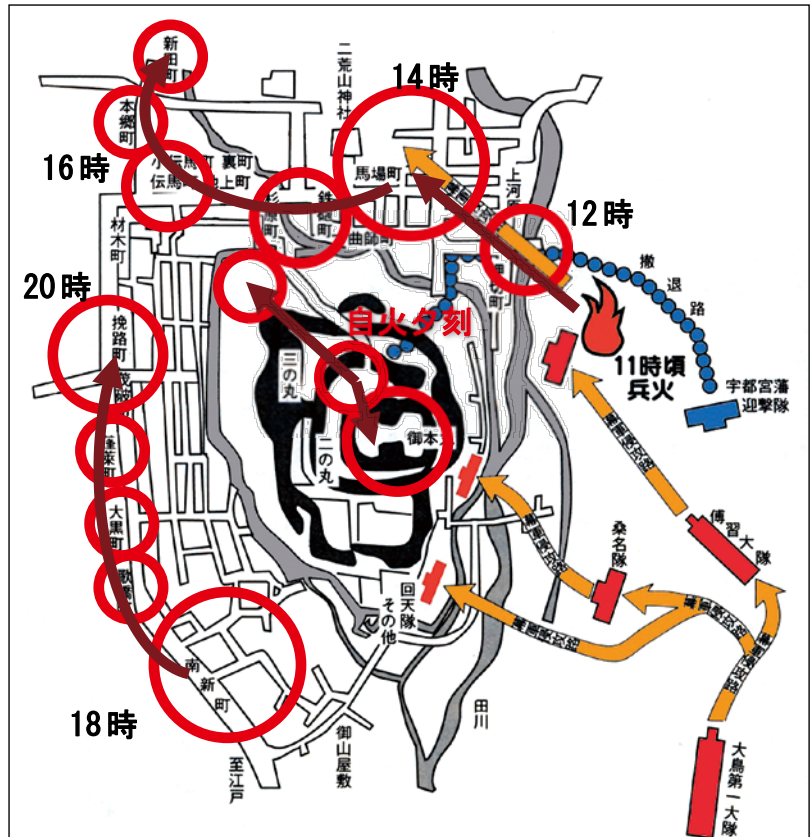
清明台復元図

8 戊辰戦争と宇都宮城の終焉

大政奉還とそれにつづく王政復古の号令により幕府が倒れると、新政府の政策を不服とした旧幕府勢力が武力行動に出ました。1868（慶応4）年1月3日に起きた鳥羽伏見の戦いから、翌年5月の函館戦争までの新政府軍と旧幕府軍との戦いを戊辰戦争といいます。

4月中旬から5月初旬にかけては下野国内を中心に激しい攻防が繰り返されました。軍事的に重要な宇都宮城をめぐる攻防戦では、新撰組副長の土方歳三が、大鳥軍の参謀として参加しており、特に激戦が展開されました。旧幕府軍は宇都宮城の守りの弱点を突くように南東方面から攻撃をかけたため、宇都宮城は落城してしまいました。このとき、敵の手に渡ることを恐れて宇都宮藩兵が二の丸御殿に火を放ち、宇都宮城の建物の多くは焼失してしまいます。

その後、新政府軍の救援隊が到着し、幕田、六道辻、松が峰門付近での激しい攻防戦の末、旧幕府方を北方に退却させ、宇都宮城を奪還します。土方は、松が峰の戦いで足に銃弾を受けて負傷し、3か月もの間戦線を離脱することになります。



旧幕府軍の攻撃と城下焼失状況

9 宇都宮城の主なできごと

時代	西暦	年号	主な出来事
鎌倉	1189	文治5	源頼朝軍，奥州合戦の際に下野国古多橋 <small>こたはしのうまや</small> 駅に到着し，戦勝祈願のため「宇津宮」を参詣。（『吾妻鏡』）
	1205	元久2	宇都宮頼綱，幕府に嫌疑をかけられ，出家して蓮生を名乗る。
	1259	正元元	このころ，新〇和歌集成立。 「館にて百五十番歌合せ侍りけるに 藤原景綱」
	1283	弘安6	宇都宮景綱，一族の統制強化のため，領内に式条を制定。（宇都宮弘安式条）
室町	1337	建武4 延元2	宇都宮公綱，南朝方として行動，一方，芳賀入道 <small>はがにゅうどうぜん</small> 禪可，公綱の息子加賀寿丸を大将に北朝方として宇都宮城に立て籠もる。南朝方に攻め落とされる。（『太平記』）
	1368	正平元 応安元	関東管領上杉憲顕 <small>かんとうかんれいうえすぎのりあき</small> ，宇都宮氏綱のいる宇都宮城を攻撃する。
	1380	天授6 康暦2	宇都宮基綱，裳原 <small>もばら</small> で小山義政 <small>おやまよしまさ</small> と戦い戦死。
	1455	享徳4	宇都宮等綱 <small>こがくほうあしかがしげうじ</small> ，古河公方足利成氏に敗れ，宇都宮城を開城。
	1514	永正11	岩城由隆・佐竹義舜軍の侵攻に対し，宇都宮氏綱，竹林でこれを破る。
	1526	大永6	宇都宮忠綱，猿山 <small>ゆづきまざとも</small> で結城政朝と戦うが，その隙に叔父の芳賀興綱に宇都宮城を奪われる。忠綱，鹿沼の壬生綱雄を頼る。
	1539	天文8	結城政朝・小山高朝 <small>おやまたかとも</small> が，宇都宮城下に進攻。
	1549	天文18	宇都宮尚綱 <small>なすたかすけ</small> ，那須高資 <small>そおとめざか</small> と戦い，五月女坂で戦死。子の伊勢寿丸 <small>はがたかさだ</small> は芳賀高定を頼り，真岡城に退去，その後，壬生綱雄 <small>みづなだけ</small> ，宇都宮城を占拠。
	1557	弘治3	宇都宮広綱 <small>さたけよしあき</small> ，佐竹義昭の支援を受け宇都宮城を奪還。

時代	西暦	年号	主な出来事
安土 桃山	1584	天正12	北条氏直 <small>ほうじょうじなお</small> 、宇都宮城を攻撃。
	1585	天正13	このころ、宇都宮国綱、多気山に本拠移転。
	1586	天正14	皆川広照 <small>みながわひろてる</small> 、壬生義雄 <small>みぶよしただけ</small> 、宇都宮城を攻撃、城下に放火。
	1590	天正18	豊臣秀吉、宇都宮城に滞在し、宇都宮仕置を行う。
	1597	慶長2	宇都宮国綱改易。
	1598	慶長3	蒲生秀行が城主となり、城と城下町を改修。
	1600	慶長5	徳川秀忠、宇都宮城に在陣。
	1601	慶長6	奥平家昌が宇都宮城主となる。
江戸	1619	元和5	奥平忠昌が古河に転封、小山より宇都宮に本多正純入封。
	1620	元和6	本多正純が宇都宮城を改修。
	1622	元和8	本多正純改易、古河より奥平忠昌再入封。
	1631	寛永8	宇都宮城二の丸東に石垣を築造、三の丸堀が拡張。
	1683	天和3	二の丸御殿全焼。
	1832	天保3	宇都宮大火、宇都宮城内役所や町地、宇都宮大明神などが焼失。
	1868	慶応4	旧幕府軍の攻撃により落城、その後新政府軍が奪還。
明治	1872	明治5	焼け残っていた櫓、門、立木などが払い下げられる。

コラム 関東の七名城の一つ 宇都宮城

江戸時代後期に上野基房もとふさ（下野庵宮住しもつけあんみやずみ）が『宇都宮史』の中で、宇都宮城を「関東七名城」の一つとして紹介しています。宇都宮城のほかに、佐野唐澤城、新田金山城、武蔵行田忍城、上野麁橋城、河越城、水戸多気城（もしくは佐竹城）が選ばれています。

なお、この七つを誰が、どのような基準で選んだかは不明です。

10 宇都宮城主の移り変わり

平安時代から安土桃山時代の宇都宮城主

時代	城主名	読み	没年・年齢	備考
平安	1 藤原 宗円	そうえん	諸説有	前九年の役, 宇都宮明神の社務職となる。
	2 藤原 宗綱	むねつな	諸説有	
鎌倉	3 宇都宮朝綱	ともつな	1204・82歳	源頼朝が奥州攻撃前に宇都宮明神を参拝
	4 宇都宮業綱	なりつな	1192・27歳	
	5 宇都宮頼綱	よりつな	1259・88歳	法名は蓮生, 百人一首の成立に関係
	6 宇都宮泰綱	やすつな	1261・59歳	鎌倉幕府の評定衆となる。
	7 宇都宮景綱	かげつな	1298・64歳	法名は蓮瑜, 弘安式条を制定
	8 宇都宮貞綱	さだつな	1316・51歳	蒙古襲来に大將軍として出陣, 鉄塔婆建立
南北朝	9 宇都宮公綱	きんつな	1356・55歳	楠木正成との戦いで勇名をとどろかす。
	10 宇都宮氏綱	うじつな	1370・45歳	上野・越後の守護職となる。
	11 宇都宮基綱	もとつな	1380・31歳	小山義政と戦い裳原(茂原)で戦死
室町	12 宇都宮満綱	みちつな	1407・32歳	汗かき阿弥陀を鑄造
	13 宇都宮持綱	もちつな	1423・28歳	塩谷氏にはかられ討たれる。
	14 宇都宮等綱	ともつな	1460・41歳	鎌倉公方足利成氏に敗れ白河に逃れる。
	15 宇都宮明綱	あきつな	1463・21歳	鎌倉公方足利成氏に降伏し復帰
戦国	16 宇都宮正綱	まさつな	1477・31歳	
	17 宇都宮成綱	しげつな	1516・48歳	成高寺, 慈光寺を開く。
	18 宇都宮忠綱	ただつな	1527・31歳	猿山の合戦で結城政朝に敗れる。
	19 宇都宮興綱	おきつな	1536・61歳	結城政朝と組んで宇都宮城を占領
	20 宇都宮尚綱	ひさつな	1549・37歳	那須高資との戦い(五月女坂)で戦死
安土桃山	21 宇都宮広綱	ひろつな	1576・32歳	北条氏政・武田勝頼らを退ける。
	22 宇都宮国綱	くにつな	1607・40歳	秀吉により改易
	23 浅野 長政	ながまさ	1611・67歳	城代
	24 蒲生 秀行	ひでゆき	1612・29歳	
	25 大河内金兵衛	きんべえ	1618・72歳	城代

※宗円, 宗綱の代に宇都宮城があったかは, 現時点で不明。

江戸時代の宇都宮城主

時代	城主名	読み	石高	転封前	就任	退任	転封後	備考	
江戸	26	奥平 家昌	いえまさ	10万	上野国小幡	1601	1614		
	27	奥平 忠昌	ただまさ	10万		1614	1619	下総国古河	初の日光社参
	28	本多 正純	まさずみ	15.5万	下野国小山	1619	1622	改易	釣天井伝説
	29	奥平 忠昌	ただまさ	11万	下総国古河	1622	1668		寛文の社参
	30	奥平 昌能	まさよし	11万		1668	1668	出羽国山形	
	31	松平 忠弘	ただひろ	15万	出羽国山形	1668	1681	陸奥国白河	浄瑠璃坂の仇討
	32	本多 忠泰	ただひら	11万	陸奥国白河	1681	1685	大和国郡山	
	33	奥平 昌章	まさあき	10万	出羽国山形	1685	1695		
	34	奥平 昌成	まさしげ	9万		1695	1697	丹後国宮津	
	35	阿部 正邦	まさくに	10万	丹後国宮津	1697	1710	備後国福山	
	36	戸田 忠真	ただざね	7.78万	越後国高田	1710	1729		享保の社参
	37	戸田 忠余	ただみ	7.78万		1729	1746		善願寺の大仏が建立される。
	38	戸田 忠盈	ただみつ	7.78万		1746	1749	肥前国島原	
	39	松平 忠祇	ただまさ	6.59万	肥前国島原	1749	1762		
	40	松平 忠恕	ただひろ	7.78万		1762	1774	肥前国島原	靱摺騒動
	41	戸田 忠寛	ただとお	7.78万	肥前国島原	1774	1798		安永の社参
	42	戸田 忠翰	ただなか	7.78万		1798	1811		蒲生君平が『山陵志』を刊行
	43	戸田 忠延	ただのぶ	7.78万		1811	1823		
	44	戸田 忠温	ただはる	7.78万		1823	1851		天保の社参
45	戸田 忠明	ただあき	7.78万		1851	1856		菊地教中の新田開発	
46	戸田 忠恕	ただゆき	7.78万		1856	1865		山陵修補	
47	戸田 忠友	ただとも	6.78万		1865	1871	廃藩置県	明治維新	

11 よみがえった宇都宮城

宇都宮城は、2度の戦争で建物の大半が焼失してしまいましたが、平成19年に土塁や櫓など一部を復元し、宇都宮城址公園としてよみがえりました。

復元にあたっては、絵図面などの城郭資料や発掘調査の結果に基づき、歴史性を重んじた伝統的な技法・材料を用いました。

伝統的な工法による復元の様子



12 「よみがえれ！宇都宮城」市民の会について

わたしたちは、中世・近世にわたり、宇都宮の政治や文化の中枢を担ってきた宇都宮城の復元を目指して、平成14年に設立しました。

宇都宮城の一部が平成19年3月に復元され、現在は、その宇都宮城を活用した様々な事業を実施し、市民の郷土への愛着や誇りを醸成することや、宇都宮城の更なる復元に向けた市民の気運を醸成することを目的に活動しています。

市民の会の主な年間行事

宇都宮城址まつり 伝統文化と歴史の祭典

宇都宮城主の戸田忠恕が将軍の代理として、家康の霊廟がある日光東照宮へ参詣した様子を再現する社参行列や、日光社参の道の一部区画を実際に歩く社参ウォーク等を実施します。



宇都宮城桜まつり

宇都宮で一番早く桜の開花を迎える宇都宮城で花見会を行い、春の到来を祝います。



宇都宮城歴史講演会

宇都宮や宇都宮城に関する歴史をより多くの方に知ってもらうため、歴史講演会を開催しています。



七夕飾り・すす払い

城址公園内で七夕飾り、すす払いの年中行事を実施しています。



●アクセスマップ●



○JR宇都宮駅西口バスターミナル38番のりば

・関東バス「市内循環線（きぶな）」で「宇都宮市役所」または「宇都宮城址公園入口」下車 所要15分

○路線バス各社、「馬場町」バス停下車，徒歩10分

○東北自動車道 鹿沼インターチェンジから車で約20分

※車でお越しの場合は、公園南側の駐車場か、宇都宮市役所の東第2駐車場をご利用ください。

編集・発行 「よみがえれ！宇都宮城」市民の会 〈HP：http://www.utsunomiya-jo.jp/〉

〒320-0806

栃木県宇都宮市中央3丁目1番4号

栃木県産業会館2階

(特定非営利活動法人 宇都宮まちづくり推進機構内)

TEL：028-632-8215

FAX：028-636-7421

Facebook：https://www.facebook.com/yomigaere.utsunomiya.jo.simin.no.kai/

宇都宮市教育委員会事務局文化課

〒320-8540

栃木県宇都宮市旭1丁目1番5号

(宇都宮市 都市整備部 公園管理課内)

TEL：028-632-2989

FAX：028-632-5418

協力